

渋谷区におけるCKD地域医療連携の取組み

¹望星新宿南口駅前クリニック、²社団法人渋谷区医師会、³順天堂大学腎臓内科
高橋 俊雅^{1,2,3}、豊田 道明²

渋谷区は夜間人口20万人・昼間人口54万人の東京都心の地域である。東京には全国の1/5にあたる約700名の腎臓専門医が登録されているが、渋谷区の腎臓専門医は比較的少なく2病院3施設の計10名で、CKD外来を行なっているのは2病院1施設計7名である。渋谷区医師会は、渋谷区内や近隣区の病院各科の専門医とかかりつけ医の「顔の見える病診連携」を推進してきたが、CKD病診・診診連携の体制は十分ではなかった。その一因として1) 渋谷区には腎臓専門医が少ない2) 区内の腎臓専門医が偏在し、紹介・受診にアクセスの問題が影響している可能性がある。一方、区内と近隣30病院へのアンケート調査で、渋谷区在住の患者の受診動向やかかりつけ医の紹介は、渋谷区内が多い傾向がみられた。無症状や軽症で地域住民が最初に受診する医療機関は、その86%が近所の医院やクリニックという東京都福祉保険局の調査結果からも、無症状のCKD患者が地域のかかりつけ医に多く通院している可能性がある。そこでかかりつけ医や患者から腎臓専門医に求められるニーズに応えることを目的に「渋谷区医師会 腎臓病相談外来」を日曜日に開始し、区内の病院でも新たに腎臓内科外来を行う機会を得て、渋谷区のかかりつけ医が紹介しやすいCKD連携の取組みを行っている。東京都心部でも地域医療連携は重要な課題であり、病院の腎臓専門医とともに地域の腎臓専門医がCKD病診・診診連携に果たす役割は重要である。